

Title	シーボルト研究(日獨文化協會編, 岩波書店刊行)
Sub Title	
Author	高橋, 碩一(Takahashi, Shinichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1938
Jtitle	史学 Vol.17, No.2 (1938. 11) ,p.191(337)- 192(338)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19381100-0191">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19381100-0191</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

市民の子息として生れ其の地に育ち後首都の士官學校に學んだ。一九〇四年には青年トルコ黨の前身に加はり、一九〇八年青年トルコ黨の革命に参加し、世界大戦前にはブルガリヤ、ドイツ等の在外武官として活動した。大戦中はガリポリの戦、メソポタミヤの戦に功を樹て、戦勝國の侵略政策に反對し武装闘争を指導し、一九二〇年セーヴル條約に於けるトルコの屈辱を憤慨し國民黨を組織し帝政を倒して共和制を敷いた。自ら選ばれて第一回大統領となり爾來今日に至るが、トルコ國民崇拜の的である。一時ラテ・イフェ・ハヌム (Latife Hanum) と結婚したが、三年の後には離婚して獨身で通してゐる。希土戦争に勝つて後は一九二三年ローザンヌで近東平和條約を結び、帝政廢止、回教主廢止、ローマ字採用、トルコ帽禁止等大改革を斷行し、政治家として武人として社會改革者として又アジャヤ人として多くを期待されてゐる。彼の内政上の標語は道路の開發、産業の發展、教育の振興にあつて之が實行の爲めに常に努力してゐる。(四六版索引共五四四頁。定價三圓)(間崎万里)

## シーボルト研究

(日獨文化協會編  
岩波書店刊行)

文政六年、長崎の和蘭醫官として來朝したフィリップ・フランツ・フォン・シーボルトについては今更言ふの要はない。「鳴瀧(長崎市外、シーボルトの診療所兼學塾)は歐洲の學術を信奉する日本人の集合所となり……その一小地よりして科學的開發の新光明が四方に放射した」との彼自らの懷想が最も良く彼の殘した歴

史的役割を物語つてゐる。

昭和十年四月上野科學博物館内に開かれた「シーボルト資料展覽會」は資料の蒐集の周到なりし點で正に劃期的な企てであつた。自分もその際數多くの珍奇なる史料に眼を瞠り、就中かの間宮林藏の勞作、内閣文庫所藏「唐太圖」「日本圖」の前に到つては、これがかのシーボルト事件の發端となつたかと思へばその結末の悲惨なりしに思を馳せ低徊去るに忍びなかつた。

その後、右展覽會に資料の蒐集せられしを機とし、專攻の學者十數氏に依つてそれらの角度よりシーボルトの研究が遂げられ編み纂めて「シーボルト研究」と名づけ日獨文化協會の手によつてこの程刊行せられた。

輯る所の論文十三、多くは言語學者として就中アイヌ語研究者として、醫學者として、動物學者として、地理學者としてのシーボルトを論じたもの、他に教育者としての面に及んだものに黒田氏、彼の第一回渡來の使命より彼の日本研究特に日蘭貿易の檢討につき論じた板澤氏、があり、更に門人がシーボルトに提作したる蘭語論文に關する四氏の分擔研究等今之等に一々言及するの暇を有しないが孰れも史料に即した着實な研究であることを喜び度い。

附録に日本に於けるシーボルト書目を附し、亦隨所に貴重なる史料寫眞を挿入されて學者シーボルトに對する贈物とするに相應しい學的良心に満ちた論文集となつてゐる。

終りに黒田氏の論文の末尾を抄つて再び在天のシーボルトに思を馳せよう。

「今日の日本は昨日の日本に非ず。十を以て數ふる宏壯なる公私大學の存在は鳴瀧の一茅屋に對して餘りに比較を失すること言ふ迄もないが、國家の文化的水準をして一段の向上を劃せしめ得る人材の養成に間然する所なきや」(七一二頁、價六圓)(高橋碩一)

寄贈交換圖書雜誌目錄

- |   |            |                  |            |
|---|------------|------------------|------------|
| 漢六朝の服飾 原田淑人著  | 東洋文庫       | 燕京學報 二十三         | 燕京大學圖書館    |
| 天平地寶  | 帝室博物館      | 燕京大學圖書報 一一六、一一七、 | 燕京大學圖書館    |
| 尾張大國靈神社史  | 尾張大國靈神社事務所 | 風俗研究 二一八、二一九、二二〇 | 風俗研究所      |
| 朝鮮咸鏡北道石器考 八木獎三郎著                                      | 東京人類學會     | 畫說 一九、二〇二一、二二、   | 東京美術研究所    |
| 昭和十二年度古蹟調査報告  | 朝鮮古蹟研究會    | 神社協會雜誌 三七、八      | 神社協會       |
| 帝室博物館年報   | 帝室博物館      | 人類學雜誌 五三〇七、八、九   | 東京人類學會     |
| 愛知縣史蹟名勝天然紀念物調査報告 第十六                                  | 愛知縣        | 上毛及上毛人 二五六、二五七   | 上毛郷土史研究會   |
| 織仁親王行實詔仁親王行實  | 高松宮家       | 經濟史研究 二〇ノ一、二、三、四 | 日本經濟史研究所   |
| 氣候と文明 間崎万里譯   | 岩波書店       | 考古學論叢 八          | 考古學研究會     |
| 金雞學報 十二、十三、特冊   | 金雞學院       | 考古學雜誌 二八ノ八、九、    | 考古學會       |
| 龍谷史壇 二十二  | 龍谷大學史學會    | 國學院雜誌 四四ノ八、九、十   | 國大雜誌部      |
| 埼玉史談 九ノ六、十ノ一、   | 埼玉郷土會      | 國民經濟雜誌 六五ノ二、三、四  | 商業研究所      |
| 京城帝大史學會誌 十三   | 京城帝大史學會    | 國史學 三五           | 國史學會       |
| 國民精神文化 四ノ二、三、   | 國民精神文化研究所  | 國史回顧會紀要 三七       | 國史回顧會      |
| 立正史學 二ノ十一   | 立正大學史學會    | 密教研究 特輯號         | 高野山大學密教研究會 |
| Harvard Journal of Asiatic Studies II 3, 4, III 1, 2, | 東北帝大文科會    | 日本文化 一四          | 天理圖書館      |
| 文化 五、七、八、九、   |            | 大谷學報 一九ノ三        | 大谷大學佛敎研究會  |
|   |            | 歷史地理 七二ノ二、三、四    | 日本歷史地理學會   |
|   |            | 歷史教育 一三ノ五、六、七    | 歷史敎育研究會    |
|   |            | 歷史學研究 八ノ七、八、九    | 歷史學研究會     |
|   |            | 西洋史研究 一三         | 西洋史研究會     |
|   |            | 仙臺郷土研究 八ノ七、八、九   | 仙臺郷土研究會    |
|   |            | 史潮 八ノ二           | 大塚史學會      |
|   |            | 史苑 一二ノ一          | 立教大學史學會    |